



二松学会大学  
父母会報

平成5年5月10日創刊  
平成19年3月31日発行  
(第56号)

二松学会大学父母会  
(本部)東京都千代田区三番町6番地16  
(事務局)千葉県柏市大井2590  
〒277-8585 TEL.04(7191)8756

二松学会大学柏教学課  
題字は  
故 観山貞廣常吉先生書



卒業を祝す

父母会長 清水 忠



春爛漫の九段  
坂の途中に、明  
治十年十月から  
漢学塾・専門学

校・新制大学と連綿百三十年の間続  
いてきた漢文の老舗、二松学会大学  
の平成十八年度学位記授与式が去る  
三月二十五日(日)に挙行された。  
卒業生諸君は、本学に於ける教え  
を思い、佐藤理事長、今西学長、ご  
来賓のご祝辞を心に刻み付け、特  
に後半の二年間を直接ご指導頂いた  
ミの先生方の教えを心の糧として、  
この厳しい本格的な「老人社会」の  
一員として、漢学の精神で勇気をも  
ってチャレンジしていつて貰いたい  
と願っている。  
午後から帝国ホテルにて卒業パー  
ティー開催。詩に「春宵一刻直千金、

花有清香月有陰」とうたわれている  
が、来場の卒業生殆どが紳士・淑女  
に化身して、恩師や友人と美酒美食  
に酔い至福の一時を過ごした。

仮令花に嵐が翌朝吹き、各自の生  
き方を自身で探らねばならなくなっ  
たとしても、漢籍に先人の英知を求  
めて遅く歩んで欲しい。

卒業生のご家族の皆様、お目出度  
うございます。本会に多大なご支援  
ご理解を頂き、厚く御礼申し上げます。  
有難うございました。

さて、卒業生達の進路は如何だっ  
たでしょうか。就職希望者が準備不  
足のまま求職活動に突入することの  
ないよう、キャリアアセンターが活躍  
しています。実力アップ指導と会社  
斡旋をきちんと行っています。ぜひ  
よくご相談の上、後押し等を真剣に  
やってあげてください。景気の上昇と  
人手不足の現象がマッチしてここ何  
年か明るい就職活動が出来るであろ  
うとセンターも力を入れています。

なお、会員の皆様は本学との情報  
やりとりの場として、地区別父母懇  
談会への参加をお勧めいたします。

ご夫婦そろってご来場下さい。  
本学教職員の皆様には、日頃より  
大変お世話になり深謝致します。お  
元氣にてのご活躍をお祈り致してい  
ます。



### 臚にー人生は長丁場ー

学長 今西幹一



卒業成つて卒業される諸君おめでとうございます。昨日附属高校の卒業祝賀会に臨んで、およそ次のような話をしました。

昨日東京で三万人が参加する大

区別されています。スタートも前列は招待選手、後方の一般参加者がスタートラインを越える時には五分近い、東京マラソンでは十数分経過しています。優勝や記録を狙おうとしても最初から不可能です。

優勝はたいいて招待選手から出ます。そういう仕組みになっているのですから。しかし、招待選手の中からも脱落者が出、一般参加者よりもうんと下位にもなります。面白いのは時代を担う有望選手が出るのも一般参加者です。そして大抵の一般参加者は完走だけを目的に和気藹々とゴールをめざします。短距離走の王者は初めから参加しません。彼らの栄光は別にあるのですから。もしこのマラソンの距離が更に延びたら、招待、一般の区別は意味を成さなくなるでしょう。後発が先発に勝てないとは限りません。長丁場の人生、マラソンに似たところがあります。めいめいが己のペースで己のゴールを目指し、完走して月桂冠を得ること。頑張ってください。

### 「二曲の人」たれー卒業生に贈る言葉ー

理事長 佐藤保



卒業生諸君、卒業おめでと。父母会の皆さま、お子さまたちの卒業を、心よりお慶び申し上げます。

さて、大学卒業を機に、諸君の多くはこれまでの長い学校生活に別れ

しかしながら、諸君は決して臆する必要はありません。前途洋々の将来に夢と希望をもって邁進して欲しいと思います。なぜなら、それが若者の特権ですから。

人生を生きるということは、よい意味での競争に勝ち抜くことです。他人には負けない知識や技能を持つこと、それが人生勝利のコツです。

中国古典の「莊子」に「二曲の士」という言葉があります。もとの意味は部分的な偏った知識しかない人はいい、あまりよい意味には使われません。この反義語は「該博の士」ですが、今の世に何でも知っている人



など存在しませんし、信用もできません。むしろ偏つてはいても、特技特徴を身につけた人こそ社会に役立つ場合が多く、人生を生きる鍵になります。ただ、「士」は男性しか意味しませんから、それを「人」におきかえて、「二曲の人」たれ、というのが諸君に贈る言葉です。

諸君の奮闘を祈ります。

### 卒業生のみなさんへ

文学部長 野村邦近



卒業おめでとうございます。この四年間にはいろいろな出会いがあったでしょう。なかでもゼミや課外活動を通じて学生時代にできた友人は生涯つきあえることが多いものです。

一人が中国に留学していましたが、何れも修了や帰国をして数年ぶりの再会であったわけです。すでに大学の教壇に立っている者あり、結婚してお子さんが生まれたばかりの人が二人おりました。お昼に食事をしながらの会が開かれたのもこのあたりを幹事が慮つてのことでした。

話をもつばら学生時代の生活に花が咲き、終始笑いが絶えませんでした。わたしも日頃の忙しさを忘れ、一服の清涼剤をもらった心境でした。

今年卒業のみなさんも数年後にはきっとこのような楽しい会が開かれるであろうことを心より期待いたします。



ます。卒業後も健康には十分気を付けて、お元気で活躍ください。

育とは「教わること」であると同時に「自己教育」でもある以上、教わったことの内何を活かせるのかは、つまるところ自分に掛かっています。

皆さんには、この大学でなければ得られなかったものを糧に、苦境や逆境にも怯むことなく、却つてそれを自分に与えられた試練と受け取るくらいの心構えを持って頂きたいと願っています。何事にも全力で取り組むこと、常に自己研鑽を怠らないこととさえ忘れなければ、切り開けない道など決してありません。以上を、私からの「贈る言葉」としたいと思います。

### 卒業生に贈る

国際政治経済学部長 鈴木朝生



卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。我が二松学舎大学は、本年創立一三〇周年を迎えます。私ども国際政治経済学部も、設立以来の十数年間に、すでに多くの卒業生を世

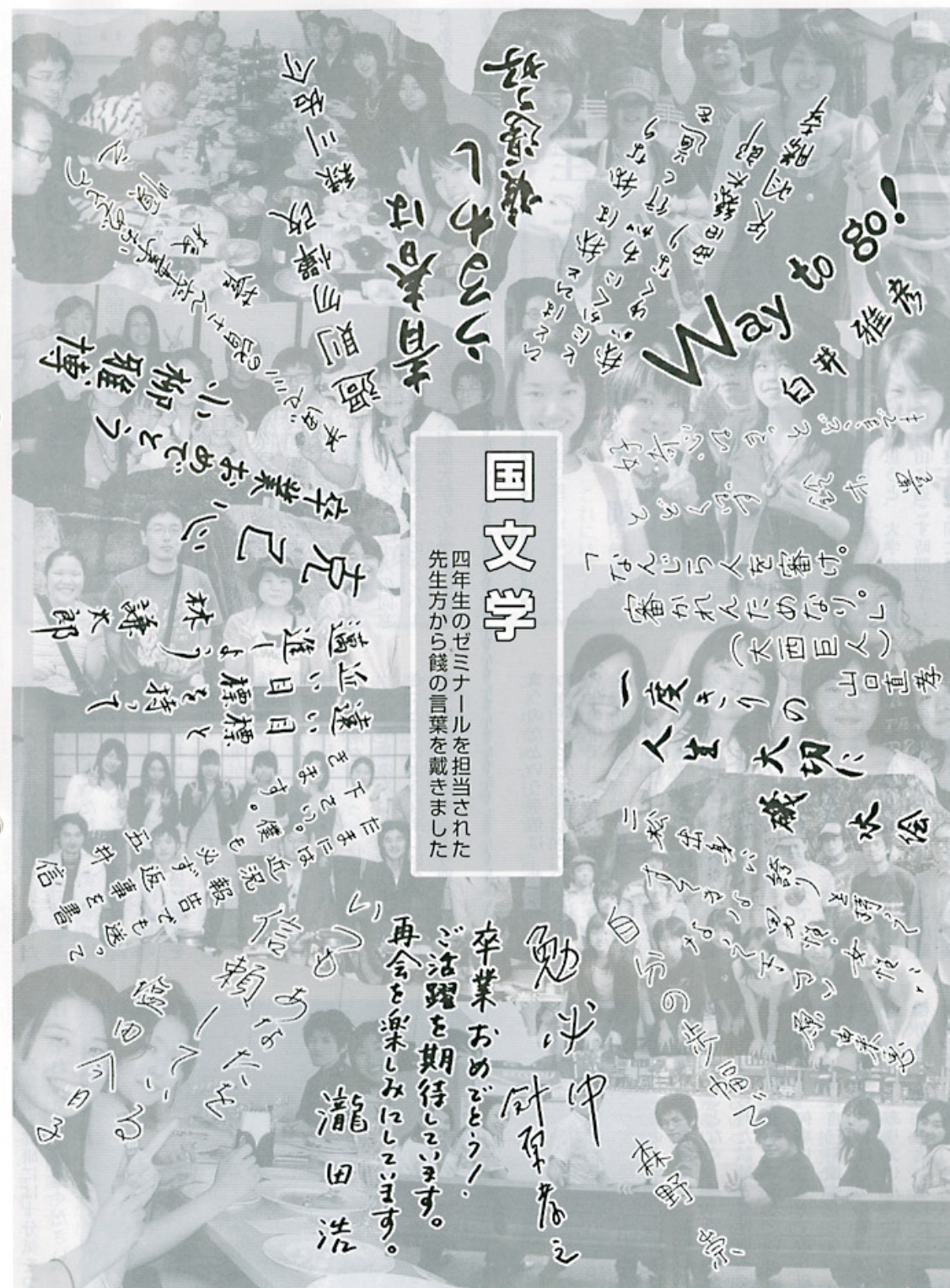
に送り出し、私のゼミからも多くの卒業生が社会の各方面に巣立っていました。

ここ数年続く傾向として、ゼミ生の内の何人かは、きまつて一年次に「基礎ゼミ」の学生でもあった学生達ですが、もう彼らを送り出す季節になったかと思うと、大学の四年間は、そこに自由に過ごす時間が十分あるようで、実は瞬く間に過ぎてし

もうのだという事情は、昔も今も変わらないのだと痛感します。私は常々人生の中で、そうした貴重な時間を過ごす場としての「大学」とは、モノを「見る目」、「考える力」を養うための「場」であり、教員はそのための「切っ掛け」や「材料」を、一つでも多く与える役割を果たすものと心得ておりますが、私ども国際政治経済学部の教員全員が全力でこの役割を果たしてきていると確信しております。

およそ人生は平坦ではなく、これからの皆さんの人生には多くの困難が待ち受けていることでしょう。教









平成19年三月二十五日(日)、九段会館大ホールにおいて、平成十八年度二松学舎大学学位記授与式が挙行了されました。

式当日の九段会館前庭には、開場前から着飾った卒業生たちが詰め掛け、晴れやかな笑顔でお互いの卒業を祝福し合い、喜びの声をかけあっていました。

午前十時、大ホールステージの緞帳が上がリ、演壇右手には来賓・学校法人二松学舎役員、左手には大学の教員が着席。馬淵

平成18年度

# 卒業式



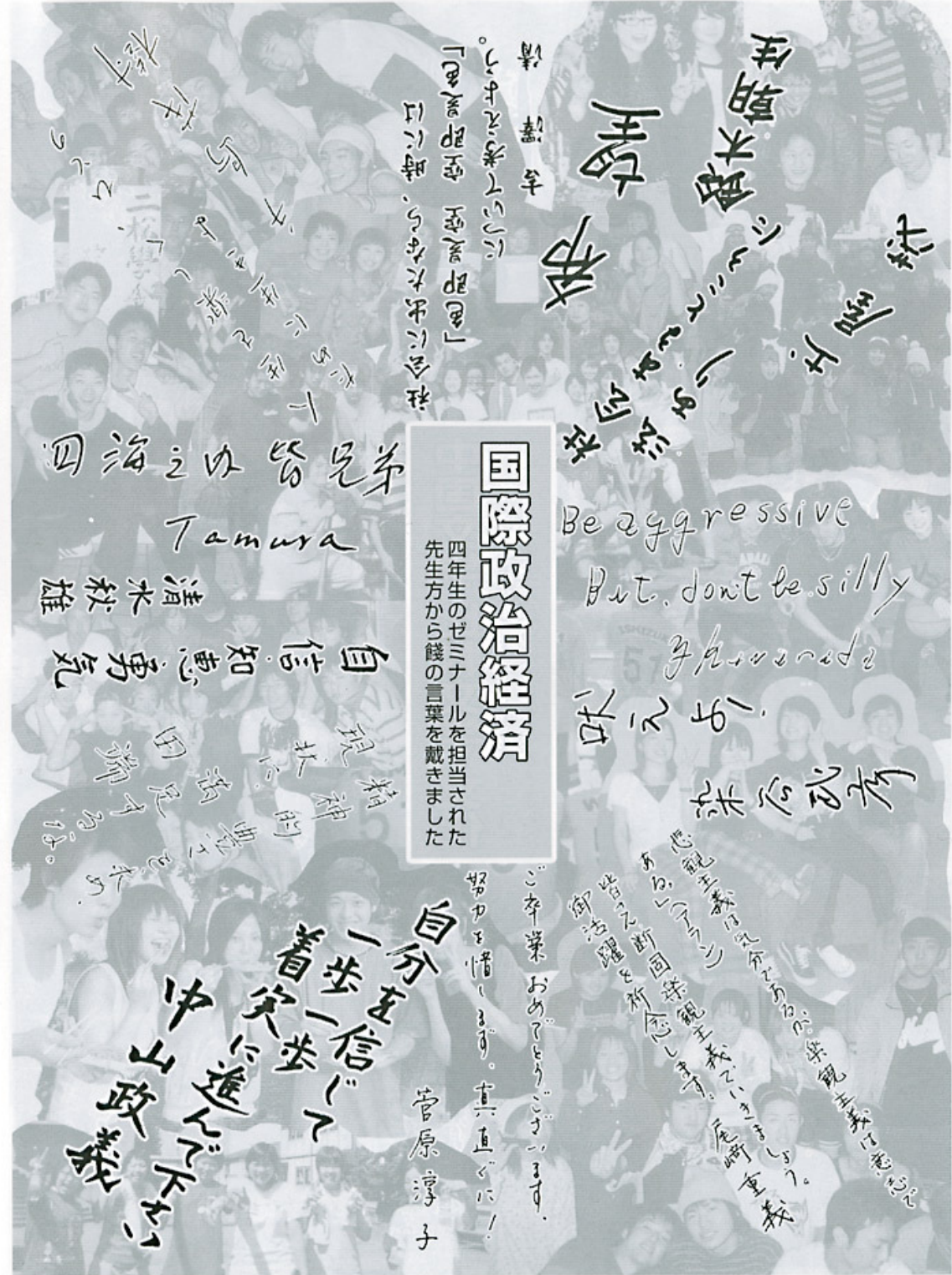
教学課係長(司会)の開式宣言で始まりました。

一同による国歌斉唱、渡邊学務局長の学事報告に続いて、学士(文学・国際政治経済学)の学位記・卒業証書(文学部四一六名・国際政治経済学部二二五名)が今西学長から授与されました。

また、成績最優秀者に中洲賞(両学部各学科一名)の授与、教育職員免許状が伝達されました。その後、今西学長の告辞、佐藤理事長・神津松峯会副会長の祝辞が続ぎ、祝電披

露の後、在校生代表の送辞、卒業生代表の答辞、校歌斉唱と滞りなく進み、終始厳粛な雰囲気の中に授与式を終了しました。

今日を境に社会人として新たな一歩を踏み出す卒業生の前途を祝すとともに、ご健勝を祈念いたします。



「おめでとう」の言葉が溢れる中、先生方から饒の言葉を戴きました

## 国際政治経済

四年生のゼミナールを担当された先生方から饒の言葉を戴きました

Be aggressive  
But, don't be silly

自信・知恵・勇気

自分自信  
着実に進んでいこう  
菅原淳子

卒業おめでとうです。努力を惜しまず、真直ぐに!





祝 卒業

平成18年度  
卒業パーティー  
IN  
帝国ホテル  
孔雀東の間




平成十九年三月二十五日(日)、午後二時より帝国ホテル「孔雀東の間」において、平成十八年度卒業パーティーが開催されました。文学部・国際政治経済学部卒業生と大学の

教職員・法人役員が加わり、広い会場のあるこちらに所狭しと華やかな輪ができ、共に祝いの声、語り合い、話の花が咲き、楽しい中にも別れを惜しむ一時を過ごしました。



卒業にあたり、新しい人生への、希望に満ちた門出に胸膨らませている学生三名に、四年間学んだ学生生活を振り返り、現在の心境及び感想等を語っていただきました。

『自信』



文学部国文学科

西巻 香織

壁という壁が本棚になっていて、ちよつと変わった先生の家に、私は高校生の頃よく遊びに行っていました。今思えば、あの家には相当の蔵書と種類の本があつて、そこらへんの図書館よりもずっとウキウキして本を借りることができたなあ。遊びに行くとき時間を忘れて、先生とひたすら文学の話をしていたっけ。日本の文学、外国の文学、古典、小説、短歌……

ある時、先生は私にこう言いました。「私がもしも、もう一度大学に行けるのなら、二松学舎大学で文学を学びたい」と。私がこの大学に興味を持つきっかけとなった言葉です。

入学式の日、この大学で学びまくってやろうと心に秘めた私は、数日後の履修登録で、興味のある授業を次から次へと組んでいきました。するといつの間にか月曜日から土曜日までみっちり授業が入っていました。「それじゃあ疲れちゃうんじゃない?」と先生は心配そうに言いました。「大丈夫です、遊ばないでいいですよ!」と先生もたたくさんいって、遊びとは似て非なるワクワク感がそこにはあつたし、実際に個性豊かな先生方の授業はどれも楽しかった!だから私は毎日、片道一時間半かけてでも大学に通いました。「毎日、毎回授業に出て偉いね」と言われたこともあつたけれど……ここで告白すると、私は一回でも授業を休んだら、それはすごくもったいないな、と思つていました。授業の中で、一つでも自分の知らないことを知ることができたら、単純に嬉しいから。これはゼミに入つてます感を感じたのですが、勉強って一人でもできるけど、一人でできる勉強はいつでもできるんですよ。授業はあくまでも一回きりのものです。せつかくの限られたこの四年間でしか、この二松学舎大学でしか学べない授業を、休むなんてやっぱりもったいない、そんな思いで私は学んできました。周囲がどう言うかではなくて、自分が何を大切にしているかが大切なんだ、と思います。

そして今、この大学生活で得たものはすべて自信となつて私の中に存在していると感じます。日々の授業はもちろんのこと、四年間の集大成ともいえる卒業論文を納め得たまで書き上げたこと、教育実習で生徒たちと触れ合った時間など、私は私を信じて、入学式に秘めた思いを行動に移してきました。

ある人が教えてくれたのですが、「一人との約束は信頼を失うことが怖いから守るけれど、自分自身との約束は誰も知らないから破つてしまつ、これを繰り返していると、自分を信じていることができなくなる。すると、自分の意志ではなくて、他人の意志で生きてしまつたりする」とのこと。自信をつけるにはまず、自分との約束を守ることが大事なのです。自信は他人の評価では得ることはできません。自分の信念を持ち続けること、自分を裏切らずに貫くこと、自分が決めたことはしっかりとやり遂げる、ということですね。自分との約束をきちんと果たした時、何とも言えない不思議な快感とともに、自信が備わります。逆に自信がないと、「自分にはできない」と決めつけ、自分の可能性を自分で狭めてしまうのです。四年間で得た自信に磨きをかけて過ごしていきたいのです。私は卒業後も自信を持って社会へ出ていきたい、生き生きと生きるために。

『四年間を振り返って』



文学部中国文学科

矢部 和香子

社会人になろうとしている今、大学四年間を振り返ると、一週間だけ夏を生きる蝉が空を飛んでいたような、そんな気がする。高校までのように受験に追われることもなく、社会人として厳しい現実の中、働くこともない。自分の意志、責任と引き換えに自由が保証されている。

私はその自由な時間に文学を学び、アルバイトをしたり、遊びに興じたりと、大学生としてごく普通に平凡に過ごしていた。ただ、よく考えるとそれらの全ては、自分を見つめることに繋がっていたようである。私は大学で日・中比較文学を専攻した。中国語の勉強は大学に入ってからだったが、発音の美しさや難しさを知り、中国語の習得に力を注いだ。そうして中国語を学ぶことによ

り、日本語の大切さを知ることになった。訳す時に適当な日本語が見当たらず、自分の日本語力のなさを痛感させられた。先生も「語学は母国語以上にはならない」とおっしゃっていたし、私も正しい日本語を説いて話し、語彙を増やすことがいかに重要かを感じた。それだけに、自然と本を読む時間が増えた。何にせよ、中国語は奥が深く、中国の作品は興味深かったが、それを熱心に研究した、というよりは、目の前にあることを着実にこなしていって、という方が表現が近いように思う。だからというわけではないが、おそらく卒業して数年もたてば、学んだことも細かいことは忘れていくだろう。人間はそういう風にできている。記憶に残るのは、自分が興

味を持つて受けた授業の内容や話した好きなことは知れば知るほど面白くなるから忘れないはずである。その点から見ると、二松学舎には興味のある授業も多かったから、ここで学べて良かったと改めて思う。特に書道で有名な大学だということもあって、書道の授業は本当に勉強になったし、貴重な時間だった。また、大学で初めて興味を持った分野もいくつかあり、詳しく調べたいと思った。

そのように、何を見て、何を思い、何を考えて学生生活を送ったのかという違いが、今後の人生の質を大きく変える。学生生活が充実して、未来に繋がる有意義な生活を送れるかどうかは、結局、心構えの問題なのだ。もちろんそれは学業に限らない。例えば人との出会いを意味あるものと認識するかどうか、最終的にはそこに落ち着く。その面から見ると、私は十分満足したわけではないが、それなりに充実した学生生活を送れたと思つている。これには支えてくれた先生や友人の存在は欠かせない。大学の中だけでなく、アルバイトなども含めて、四年間で多くの人と出会い、良き友人を得た。人との出会いは自分を知ることであり、大き





平成19年度二松学舎大学日程表

Table with 2 columns: 平成19年 and 平成20年. Each column has a table with columns for year, month, day, and event. The 19th year table lists events from April to September. The 20th year table lists events from October to March.

平成十八年八月二十六日(土)・二十七日(日)、大阪府立門真スポーツ

学生の課外活動報告

鈴木庸子さん、泳法大会入賞

「二松学舎新聞」の記事内容もホームページで読めるようになりまして。広報誌「学」、本学の伝統となっている「二松学舎大学公開講座」の教養講座・書道講座のご案内もしております。また、文部科学省に採択された二松学舎大学21世紀COEプログラムの一環として「二松学舎大学COEプログラム公開講座」が開講されており、二松学舎大学エクステーションカレッジ「二松塾」・東アジア学術総合研究所開催の講座内容も詳しく掲載されております。どうぞ活用いただきしたいと思います。

学生顕彰並びに課外活動団体助成

本学父母会では、学生顕彰、さらに課外活動助成として、学生のクラブ・サークル等課外活動の実施に伴う経費の一部を助成しております。学生顕彰では、主要な競技大会において、優秀な成績を上げたときなど、団体助成では、本学の課外活動団体に加盟している部・同好会・愛好会及び学生会公認サークルが学外の会場を使用したり、ポスターを作成した場などに、会場使用料及びポスター作成費の一部を助成しております。

大学・松峯会(同窓会)でも同様の助成をしておりますので、教養課または柏教学課にお問い合わせください。

『学生生活を振り返って』



国際政治経済学部 鈴木将頼

大学における学生生活を振り返ってみると、やはり短かったように感じる。それは恐らく学生生活が充実していたからであろう。そのように私を感じることはできるのは、一つのことを妥協なくやり通したからである。それは何かといえば、学業に他ならない。私にとって大学生活は、多かれ少なかれ学業に専念するということに尽きていた。以下、私にとって学生生活の中心であった学業に関して、思い出深い三つの体験を中心に話を進めていきたい。

「二松学舎新聞」の記事内容もホームページで読めるようになりまして。広報誌「学」、本学の伝統となっている「二松学舎大学公開講座」の教養講座・書道講座のご案内もしております。また、文部科学省に採択された二松学舎大学21世紀COEプログラムの一環として「二松学舎大学COEプログラム公開講座」が開講されており、二松学舎大学エクステーションカレッジ「二松塾」・東アジア学術総合研究所開催の講座内容も詳しく掲載されております。どうぞ活用いただきしたいと思います。

「二松学舎の近況をホームページで」 本学のホームページには、春夏秋冬、理事長エッセイ・学長からのメッセージをはじめ、キャンパス歳時記が掲載されています。最近の本学の動向、さらには学生が今何をしているかなどの情報が伝わるかと思えます。 さらに、「二松学舎新聞」の記事内容もホームページで読めるようになりまして。広報誌「学」、本学の伝統となっている「二松学舎大学公開講座」の教養講座・書道講座のご案内もしております。また、文部科学省に採択された二松学舎大学21世紀COEプログラムの一環として「二松学舎大学COEプログラム公開講座」が開講されており、二松学舎大学エクステーションカレッジ「二松塾」・東アジア学術総合研究所開催の講座内容も詳しく掲載されております。どうぞ活用いただきしたいと思います。





### 《田村ゼミナール》

田村ゼミでは、理論経済学、東アジアの政治と経済を研究の対象としています。私達のゼミは、留学生が多い事が特徴です。そのおかげで、教室内では中国語・日本語、さらには韓国語までも飛び交うという、独特な雰囲気を感じています。現三年生は中国人留学生六人、日本人学生三人、来年入る新三年生は、さらに中国人学生が増えるようです。教室に一步踏み出せば別の国、まさにプチ留学をしているような感覚です。

### 《塩田ゼミナール》

塩田ゼミは、沢山の事を学べるゼミです。一年間を通して韓国ドラマを見た時、時には自己探求をしたり、毎回形を変えていくのが塩田ゼミのスタイルです。学生達と話すのが好きな塩田先生は、ゼミの時間に沢山のお話を聞かせてくれます。様々なジャンルの話で、日韓関係の話であったり、世の中で起きている深刻な問題であったり、とても幅広いです。ゼミ生は、そんな話を聞いて心に素直な事や自分の経験などを素

直に発言していきます。塩田先生の明るく元気で気どらない性格が、話しやすい雰囲気を作ってくれているのだと思います。そんな先生とゼミ生とで行く夏の旅行先は韓国です。三泊四日で、ソウル市内で異文化を体験します。団体行動では、韓国の歴史や伝統文化を学びました。観光スポットで有名な「景福宮」では、レンタルできる韓国の伝統服を着た男子ゼミ生もいて、韓国を体感していました。夕食は、塩田先生の提案で「韓定食」を食べに行きました。旅行中は自由

活動は、田村先生の講義、ゼミ生の発表はもちろんの事、外に出かける機会が多いです。太陽を浴びながら、記念碑や歴史的建造物等を田村先生の解説を聞きながら回るのは非常に楽しいひと時です。昨年度のゼミ旅行では、二泊三日で韓国に行きました。目的は韓国の大学生と交流を図ることです。これは、田村先生と培花女子大学の高明奉教授との信頼関係の賜物で実現した計画です。非常に盛大に迎えて頂き、ゼミ生一同驚きの連続でした。下の写真を御覧ください。二松学舎

## ゼミ探訪

三月二十五日、四年生が新卒生として、それぞれの進路に向かって学舎を巣立って行きました。二松学舎の卒業生として、胸を張って頑張った思い出です。新四年生の就職活動は、前年より一カ月前も早く、十一月に情報会社で実施した合同企業説明会でスタートいたしました。キャリアセンターでは、三年生に対する就職支援の一貫として、昨年四月から春セメスターは毎週木曜日三限に、秋セメスターは毎週木曜日三・四限に「就職対策講座」を実施することで、企業の早い採用活動に対処いたしました。

後期のゼミでは、「言いたい事を本音で話す」をテーマに、ゼミ生全員が一人一人発表しました。先生とゼミ生からの質問もあり、自分の思いを相手に上手く伝えることの大切さを改めて知ることができました。先生が作り出す拘束のない自由な世界は、塩田ゼミの面白さです。大学を歓迎する横断幕が掲げられています。写真では小さく見えますが、人間と比べて頂ければその大きさが解ると思います。たくさん御紹介したいのですが、文字数の制限があるため、書ききれないのが残念です。学生同士の交流も進み、メールアドレスを交換し、帰国後も交流を深めている学生もいるようです。あつ！という間の韓国旅行でしたが、一生に一度の、貴重な経験ができたと思います。今年は上海の予定で、ゼミの仲間と次はどんな経験を共有できるのか今から楽しみにしております。



### 学生相談室

だより 56

カウンセラー 阿部千香子

新年度がスタートです。新入生の皆様、ご入学おめでとうございます。ご両親様におかれましては、大学受験という一大事業を終え、一息つかれている頃かと思えます。一方で、教育システムのめまぐるしい変化、青少年の心の問題などを見聞きし、戸惑いや不安を感じておられるかもしれません。青年期には、誰でも少なからず心のバランスを崩すものです。急速に大人に向かう時期、猛スピードに成長中で、すから、バランスよく伸びるはずがありません。背は伸びても顔は幼いまま、というアンバランスな肉体であるように、心もアンバランス。ある部分は成長して、ある部分は未熟なまま、という状態です。たとえ、「自立心は大人なみ、思慮深さは子どもなみ」「思考力が成熟したのに、行動力が伴わない」：そんなことありませんか？

大半の青年は、成長過程のアンバランスさから来る問題や苦しみを経て、自分自身を知り、受容し、安定を取り戻してゆきます。バランスの崩れが大きくなりすぎて、専門的なケアが必要となる場合もあります。適切な治療や休息、あたたかな語り合いを通じ、ゆっくりと健康を取り戻してゆきます。ご家族から見ると、もどかしいことでしょう。専門家の言う「お子様を信頼して、本人のペースで」が子どものためとわかっていても、「返えは立て、立てば歩めの親心」や「我が身におきているかのような心配を抱き、先回りするのが親の情」というもの。親御さんのお話をお聴きすると、親の行動とは、それが子どもの望まぬことであっても、深い無償の愛からやってくるもの、と頭の下がる思いです。愛あればこそ、信頼と心配の塩梅は難しいものですね。学生相談室では、ご家族からの相談にも応じております。どうぞ、お気軽にご利用ください。

### キャリアセンターだより

新四年生に対する内定出しのピークは、大手企業が四月中旬頃と予想されます。その後中堅企業が続き、五月連休明けで一段落すると予想されます。新四年生は春期休業期間の二月三月に企業の採用試験を受験しております。健康管理をして頑張ってください。ご父母の方もお子さんの就職活動にご理解とご支援をお願いいたします。また、就

職活動で話し詰まる前に、早目早目にキャリアセンターに相談するよう、併せてお伝え下さい。公務員・公立学校教員志望者は、いよいよラストスパートの時期です。この時期をいかに頑張ったかが合格に結びつくことは、合格した先輩の報告でも明らかです。さて、キャリアセンターが平成十九年度に実施する各学年を対象とした各種支援講座（職業適性検査・就職対策講座・公務員合格講座・教員採用試験合格講座・個人面談等）については、四月初めのガイダンスにて学生に配布しております。内容を確認いただき、必要な講座等には必ず出席するようにお子さんにお話し下さい。なお、講座（公務員・教員採用試験合格講座など）によっては有料となっておりますのでご了承願います。キャリアセンターは柏校舎では二号館一階に、九段校舎は三階にて業務を行っております。いつでもお越し下さい。



### 地区別父母懇談会年次開催計画案

| 年度    | 平成19年度     |          | 平成20年度 |
|-------|------------|----------|--------|
| 開催予定県 | 石川県(金沢市)   | 6月30日(土) | 青森県    |
|       | 岡山県(岡山市)   | 6月30日(土) | 秋田県    |
|       | 大阪府(大阪市)   | 7月1日(日)  | 栃木県    |
|       | 東京都(九段校舎)  | 7月7日(土)  | 千葉県    |
|       | 千葉県(柏校舎)   | 7月14日(土) | 東京都    |
|       | 山梨県(甲府市)   | 7月21日(土) | 新潟県    |
|       | 静岡県(静岡市)   | 7月21日(土) | 島根県    |
|       | 群馬県(高崎市)   | 7月28日(土) | 福岡県    |
|       | 山形県(山形市)   | 7月28日(土) | 長崎県    |
|       | 福島県(郡山市)   | 7月29日(日) | 鹿児島県   |
| 合計    | 10会場(開催日順) |          | 10県    |

・平成20年度以降の開催県は入学者分布によって変更があります。

父母会事業計画の一環として、毎年開催されている地区別父母懇談会の平成20年度までの開催予定と、本年度の日程と開催県が別表のように決定しましたのでお知らせいたします。実施日順から石川県・岡山県・大阪府・東京都・千葉県・山梨県・静岡県・群馬県・山形県・福島県の十会場を予定しております。詳細については、決定しだいお知らせいたします。

大学への質問及びご意見・ご要望など大学関係者と直接お話しいただける絶好の機会です。この機会を是非利用していただきたく思います。フリー参加形式としておりますが、開催県在住の会員には改めて出欠確認のため開催案内をお送りいたします。開催県以外のご出席希望の方は、父母会事務局まで御連絡ください。(電話〇四一七一九一一八七五六)

### 定期総会

#### 平成十九年度

#### 父母会定期総会開催について

左記の日程で、平成十九年度二松学舎大学父母会定期総会を開催いたします。

当日は、講演会を予定しております。

日時・平成十九年五月二十六日(土) 場所・九段校舎

内容・平成十八年度事業報告並びに決算

・平成十九年度事業計画並びに予算

・平成十九年度役員選出

定期総会の案内及び総会資料は、五月初めにお手元にお届けいたします。



### 編集後記

父母会報五十六号をお届けします。卒業生の父母の皆様、お子様のご卒業おめでとうございます。今年も帝国ホテルで盛大なパーティーを行いました。

社会は好景気、天災は少なく人災が目立ちました。天災でも人災でも、それ等に対処出来る人物を育てるのは漢学の力ではないでしょうか。君子を育てる。人材を育成する。難しいでしょう。二松学舎は漢籍を読む者を育てます。二松学舎は漢籍に親しむ情熱教師を育ててきたのです。その後継者を送り出すこと、これに注目したい。

二松学舎は既にこれに取り組んでいるのではないかと。漢文読みを全国にひろげる。論語の素読を普及する。全国旧藩校の所在地に松苓会員を中心に素読塾を作る。明治十年に三島中洲先生が九段の地に二松学舎を開いた意味を忘れない心が大切だ。さて、今年は就職はいかがだったでしょうか。「大学は出たけれど」という時代がまた過ぎようとしています。就職も売手市場になってきたよう、キャリアアセンターも効果ある指導を研究しています。親子で一緒に就職について考え、進んでいきましよう。全国の父母会の皆様のご健康を祈ります。